2021 年 3 月 15 日（月）

① 米物価（CPI）

⇒ 英キャピタル・エコノミクスのアンドリュー・ハンター氏は、飲食店や飛行機の利用の回復で「サービス分野の価格が上がるのも時間の問題だ」と指摘する
⇒ さらに「多くの分野で（従業員を減らしたことによる）供給制約に直面するなかで経済対策により需要が急増し、今後数カ月で急速にインフレが進みうる」とみる
⇒ オランダ金融大手 ING のジェームズ・ナイトレイ氏は「供給能力の増強は一夜にしてできない。（供給制約は）企業の価格決定力を強め、インフレを長引かせる」と指摘する
⇒ ING のナイトレイ氏は 5～6 月にかけインフレ率は 3.5～4%に達し、今後 2～3 年は 2.5～3.5%を保つとみる。必然的に長期金利には上昇圧力がかかる

② 商品相場の「スーパーサイクル」説　～銀 と プラチナ～

⇒ 海外報道からは、商品相場の「スーパーサイクル」という約 20 年前のバズワード（流行語）を投資銀行が再び使い始めたと伝わる
⇒ 世界を新型コロナウイルスが襲った 20 年春を大底にして銅、ニッケル、コバルト、銀、白金などの金属資源価格は物によって 2 倍超に急騰している
⇒ 今回は脱炭素とエネルギー転換が背景にある
⇒ 価格が 2 倍に跳ね上がった商品は、すべて自動車の電動化や再エネルギーに不可欠な原材料だ
⇒ 二酸化炭素排出を 30 年後に実質ゼロにする目標達成に向け供給量を増やす必要があり、スーパーサイクル説には説得力がある

③ 米ドル

⇒ 1ドル＝109.00 円前後

⇒ 5 年チャートでは平行線の上限が約 110 円

⇒ まだ一定のゾーンで動いているのは間違いないが、米 10 年国債利回りが 1.625%と本格的に上昇してきた

⇒ 3 月 17 日の FRB、19 日の日銀の会議後、為替・株式ともに大きく変動する可能性が高い

⇒ 1ドル＝110 円の巨大な壁を突破するかどうか、最大のポイントになる週

【米 10 年国債利回り:3 年】